

## 事後評価報告書

CONCERT-Japan プロジェクト(欧州連合(EU)との日本-EU 共同研究)「災害に対する回復力」領域

(支援期間:平成 25~26 年度)

1. 研究課題名:「鉄筋コンクリート架構と内蔵組積造壁を一体化する革新的耐震補強工法の開発」

### 2. 研究代表者名:

日本側: 東京大学 生産技術研究所 所長・教授 中埜 良昭

相手側: チャンカヤ大学 土木工学科 学部長 Polat Gulkan(トルコ)

カッセル大学 土木・環境工学部 部長 Ekkehard Fehling (ドイツ)

3. 総合評価: A

### 4. 事後評価結果

#### (1)研究成果の評価について

本研究は、新築の鉄筋コンクリート架構に内蔵する組積造壁による革新的耐震化工法の開発を目的としている。日本、トルコ、ドイツの研究チームがそれぞれの得意な領域を分担し、革新的耐震化工法の開発のために静的実験、振動台実験、解析などの総合的な研究を実施しており、今後の設計法やガイドラインの確立に繋がる成果として広く普及できる可能性がある点は高く評価できる。本研究成果の発表は行なわれているが、国際学術誌などへの共著論文の形での発表も求めたい。また、本研究は、JST の地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)に引き継がれることが決定しており、今後の実用化を期待したい。

#### (2)交流活動の評価について

革新的耐震化工法の開発に向けて各国が得意な分野についての実験を担当し、それらの結果を共有することで、他国の人々もその分野のノウハウを知ることができている。その結果、総合的な技術力の底上げと技術に関する人材育成に繋がったことは評価できる。また、振動台実験等を含めて、研究活動には学生や若手研究者も参加するなど幅広い人的交流を図られており、今後も継続的な交流が期待できる。但し、トルコ側予算措置の遅れにより、各国からの来日は平成 26 年度のみに留まっていたことは残念である。本事業参加者以外との交流を図るワークショップなども実施し、よりすそ野の広い交流に繋げることも期待したい。

#### (3)その他

各国の研究分担内容が明確であったこと、それらを全て総合化することでガイドライン等の作成に結びつける全体計画が明確であったことは高く評価できる。